

第6回総務文教常任委員会会議録

1 開会日時 平成29年7月18日(火)午前11時19分

2 閉会日時 平成29年7月18日(火)午後1時0分

3 会議場所 議会委員会室

4 出席委員

1 番 永徳 省二君 7 番 大口 浩志君 11 番 松田 勲君
12 番 北川 勝義君 16 番 下山 哲司君 17 番 実盛 祥五君
18 番 金谷 文則君

5 欠席委員

な し

6 説明のために出席した者

| | | | |
|---------------------|--------|----------------------|--------|
| 市 長 | 友實 武則君 | 教 育 長 | 内田 恵子君 |
| 総合政策部長 | 作間 正浩君 | 総合政策部参与兼 市民生活課長 | 徳光 哲也君 |
| 総 務 部 長 | 前田 正之君 | 財 務 部 長 | 直原 平君 |
| 教育次長 | 藤井 和彦君 | 赤坂支所長兼 市民生活課長 | 黒田 靖之君 |
| 熊山支所長兼 市民生活部参与 | 入矢五和夫君 | 消防本部消防長 | 矢部 敬史君 |
| 秘書企画課長 | 小引 千賀君 | まち・ひと・しごと 創 生 課 長 | 遠藤 健一君 |
| 総 務 課 長 | 原田 光治君 | くらし安全課長 | 中川 裕敏君 |
| 財 政 課 長 | 藤原 義昭君 | 管 財 課 長 | 小坂 憲広君 |
| 税 務 課 長 | 末本 勝則君 | 収納対策課長 | 土井 常男君 |
| 教育総務課長 | 安本 典生君 | 学校教育課長 | 松井 啓子君 |
| 社会教育課長兼 スポーツ振興課長 | 土井 道夫君 | 消 防 本 部 消防総務課長 | 井元 官史君 |
| 警 防 課 長 | 檜原 秀幸君 | | |

7 事務局職員出席者

議会事務局長 奥田 吉男君 主 事 松尾 康平君

8 現地視察 旧備作高等学校

吉井中学校プール

9 協議事項 1) 事業の進捗状況について

2) その他

10 議事内容 別紙のとおり

午前11時19分 開会

○委員長（北川勝義君） 皆さん、おはようございます。

早朝、視察していただき、第6回のこれから総務文教常任委員会を開きたいと思います。

開会に当たりまして、市長の御挨拶をいただきたいと思います。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 皆さん、御視察をいただきまして、ありがとうございます。

きょうごらんいただいた旧備作高等学校の校舎、これから利用に向けてしっかりと事業を進捗させていきたいと思っています。また、吉井中学校のプールにつきましてもごらんいただいて、あの場所に再びプールを建設していくという事業を今後とり行っていこうというふうに考えている次第でございます。総務文教常任委員会の委員の皆様方にも御理解、御協力のほどお願い申し上げます。

また、きょうは委員会をお開きいただきましてありがとうございます。本日の予定している協議案件でございますけれども、先般の市議会で御決定いただきました案件を含めた平成29年度の事業の進捗状況等について協議をさせていただきます。何とぞよろしくようお願い申し上げます。挨拶にかえさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

それでは、引き続き協議事項に入る前に7月の人事異動により総務文教委員会の出席者がかわっておりますので、執行部のほうからの自己紹介を兼ねて紹介を願いたいと思います。

○秘書企画課長（小引千賀君） 失礼します。先ほどは視察で大変お世話になりました。

○委員長（北川勝義君） ちょっと聞こえにきいから、座ってでもええからマイクを入れてちょつと言うたって。

○秘書企画課長（小引千賀君） 失礼します。先ほどは視察で大変お世話になりました。

改めまして、秘書企画課長の小引と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員長（北川勝義君） あとはよろしいな。

それでは、皆さんお聞きのとおり秘書企画課のほうで小引課長ということになりましたので、御挨拶が終わりました。

それでは、これから協議事項に入りたいと思います。

第1番目の事業の進捗状況について執行部から説明を願いたいと思います。

きょうは、皆さん、まとめて全部説明させていただいて順次聞かせていただくという方法をとりたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） ほんなら、そうさせていただきます。

それで、説明を順次、総合政策部のほうからお願いしたいと思います。

○秘書企画課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 小引課長。

○秘書企画課長（小引千賀君） それでは、資料1ページをごらんください。

吉井・赤坂地域における通院支援バスの試行についてでございます。

ことし2月、3月に試行しました通院支援バスについて、その後の地域の状況の変化に合わせて、来年度の地域公共交通網形成計画策定に向けたデータ収集のため路線や運行曜日を見直した試行を実施いたします。試行運行期間は平成29年9月から来年3月末までを予定しております。

運行形態と路線についてですが、まず資料右側の赤坂地域路線図をごらんください。

赤坂地域におきましては、笹岡地域の森医院閉院後、赤磐医師会が仁美診療所への医師派遣を週2回、火曜日と金曜日に行っており、仁美診療所の来院者の約半数が赤坂地域からという調査結果を踏まえまして、笹岡公民館から仁美診療所まで北上するルート、路線図で言いますと、黒色の太色部分になりますが、こちらを週1回、火曜日に試行いたします。具体的には大屋下から山手、惣分を経由して小原方面に入り、乗客を乗せた後、仁堀診療所へ接続します。赤い点線部分、大屋下から笹岡公民館及び小原上集会所から幹線まではフリー乗降ということで、バス停以外の箇所でも路線上であれば乗りおりを可能といたします。また、運行形態については前回の試行運行と同様、事前の電話予約により運行するデマンド型で通行ルートの中のバス停で乗降する形を考えております。

次に、下側の城南地域と仁美地域の路線図をごらんください。

赤色の太色線が通常のデマンドバスと比較して変更している部分です。吉井地域におきましても、地元住民の方の声もあり、通院支援を目的としたバスを週1回、試験運行したいと考えております。通行経路といたしましては、城南地域、仁美地域ともに前回の試験運行と同様に通常のデマンドバスの運行経路に加えて、佐伯北診療所への路線を延伸した形になります。前回の試験運行との違いといたしましては、前回の試験運行ルートに加えて吉井、城南地域において現在デマンドバスの利用対象エリアとなっていない周匝、福田地域の旧道沿いにバス停を設置し、事前に予約をいただいた上でバス停において乗りおりする形での試行ルートを予定しています。

今回は、より多くの方に実際に乗ってみるという行動のきっかけづくりを行うことによって、利用促進を図りたいと考えています。これまで同様に広報紙でのお知らせをいたしますが、これらに加えて地域へ伺って利用促進の取り組みを行います。通院や買い物といった目的別のマイ時刻表、例えばこの時間のバスに乗って、何時までに目的地に行き、どう過ごして、帰りの便は何時に乗るかといった具体的な個人個人の時刻表と一緒に考えてつくらせていただくという機会をつくらせていただく予定にしております。

引き続き、その他の部分で映画祭りの報告についてさせていただいてよろしいですか。

○委員長（北川勝義君） もうちょっと声を大きゅう言うて、聞こえにきいから。

○秘書企画課長（小引千賀君） 7月8日土曜日に桜が丘いきいき交流センターであかいわ映画祭り実行委員会が実施いたしましたあかいわ映画祭りについて御報告します。

今回、映画へは市内外から約400人、交流会には約70人の方が来場され、盛大に開催されました。資料のほうはございません。同時に開催した特産品の売り場につきましても、桃については午前中に完売、センター前で実施した商工会によるテントでの飲食物販売も予定を売り切り好評でした。映画の合間に行われたあかいわ広報大使である佐々部監督と俳優の津田寛治さんのトークショーも好評で、当日実施いたしましたアンケートによりますと、50代から60代の方が約56%を占めておられ、全体では赤磐市内の方が約66%、岡山市からが次に多く約18%、遠くは神奈川県や近畿、中国地方を中心に県外の方も含めてお越しいただいております。アンケートにお答えいただいた方からは、年代を選ばない心温まる映画を近くで見られてうれしい、いい企画だったので続けてほしいといった御意見を多くいただきました。

続けて、資料2ページをごらんください。

前回の委員会で御報告いたしましたあかいわ魅力発見フォトコンテスト2017につきまして、今週の金曜日に配布する広報あかいわ8月号の裏表紙で作品募集を行いましたので、添付しております。写真愛好家の方に限らず、多くの方に応募いただければと思っておりますので、御協力のほどよろしく願いいたします。

以上です。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、遠藤課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） それでは引き続きまして、まち・ひと・しごと創生課の事業の進捗状況について簡単にお話しします。

資料続けて3ページをごらんください。

先月の委員会の中でも7月2日の婚活イベントに少し女性が足りないんですということで、委員の皆様方にも御無理を申し上げたところがございますが、報告でございます。

男性15名、女性12名の参加がありまして、最終的に5組のカップルが誕生いたしました。いずれも男性は赤磐市にお住まいか、もしくはお勤めの方ということで、それぞれ赤磐市の結婚推進協議会の結婚推進委員さんがサポートに今後ついていくということになりました。

下段をごらんください。

結婚祝金の初贈呈についてでございます。市のほうで主催もしくは共催する婚活イベントで成婚された方に20万円ということで祝金制度をつくらせていただいておりますが、2月に和気・赤磐合同のカップリングパーティーで出会われたお二人がめでたく御結婚されましたので、8月に祝金の贈呈を予定しております。男性が田中さんという赤磐市在住の方で、女性が井原市の方でございます。

続きまして、資料4ページをごらんください。

おかやま合同移住下見ツアーでございます。岡山連携中枢都市圏の移住・定住分野の共同事業ということで、中段の四角にありますAコース、Bコース、Cコースとございますが、赤磐市のほうは岡山市と和気町さんと一緒にCコース、便利な田舎暮らしということで予定をしておりますので、御紹介をいたします。

最後のページでございます。

チラシをつけさせていただいておりますが、7月29から30日ということで、それぞれ2市1町を回って見どころを御紹介をしたいというふうに考えてございます。20名の募集につきましては満員でございます。

総合政策部からは以上でございます。

○総務課長（原田光治君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 原田課長。

○総務課長（原田光治君） 総務部の資料1ページをごらんください。

5月に引き続きまして、外部監査制度の概要ということで御説明をさせていただきます。

1としまして、検討経過でございますけれども、平成25年度に置かれました監査委員の共同設置、3市共同設置がきっかけとなりまして、当市におきましても継続的に検討をしてきたものであります。

2としまして、個別外部監査制度の概要でございますけれども、ぼつの3つ目、こちら外部監査人によるんですけども、専門家による監査となっております、契約締結に当たりましては監査委員の意見を聞きまして、その上で議会の議決を経なければならないということになっております。

3つ目としまして、自治体における監査事例ということで、ちょっと具体的に挙げさせていただいております。東京都台東区での事例としましては、図書館事業ということで教育委員会、中央図書館を対象にしまして、その事業内における事務的な委託契約等が法令、例規に照らし合わせて適切に結ばれているかどうか。あと、事業そのものの経済性ですとか、効率性、有効性の辺を視点を監査を行っているようです。2つ目の事例としましては、瀬戸内市になりますが、こちら平成24年度に実施しておりまして、この場合には税務課と健康づくり課、2つの課を対象にしております。税務課につきましては、事務の品質向上と再発防止という視点で税務課における督促状の誤発送についての監査、もう1個の健康づくりにつきましては、業務実態ということで業務の適正性、効率性の観点での監査を行っているようです。今の2例の事例にありますように、監査事例としましては団体の長の請求に基づくものがほとんどでありまして、内容的にも事務事業の正確性、能率性や効果的、能率的な行政サービスを提供するための観点で監査が行われております。

4としまして、当市の個別外部監査制度の導入理由としましては、過去におきまして国家賠

償請求訴訟ですとか、百条委員会の立ち上げ、水道メーターの問題などいろいろ事務事業執行上の問題となるような問題に直面してきております。監査機能としては内部監査が十分行われておりますけど、監査請求において外部からの視点が必要であるとの判断、要求があった場合にそれに応えられる制度を備えておくことは自治体の姿勢を示すものとして適当であると判断したことによります。

5としまして、個別外部監査制度のメリットですけども、監査委員の年間通じて監査の需要の高まり等も受けまして、会計監査をこなしながら住民監査請求等に対応していただいているのが現状でございます。これの監査委員による監査の補完機能として有効であるものと考えております。地方公共団体に属さない者が契約を結んで監査を行うということから、専門知識に基づき、また時間、期間について柔軟に監査することが本来であるというふうに考えております。

引き続きまして、別の1枚紙のほうをごらんください。

お題のほうがAMD Aに派遣している職員の九州北部豪雨における活動報告ということになっております。昨年、災害時の連携協定を結んだAMD Aへ当市の職員を派遣しております。その職員がこのたび豪雨災害のありました福岡県朝倉市のほうへ調査員として行ってきております。今回、調査のみで提出しておりますけども、お知らせということでごらんいただければと思います。

総務課からは以上です。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 中川課長。

○くらし安全課長（中川裕敏君） それでは、資料のほう2ページへお戻りください。

くらし安全課の今後の行事予定について表にしております。主なものについて説明のほうをさせていただきますと思います。

その前に、先週末7月15日土曜日に交通安全推進大会を開催いたしましたところ、御多用の中御参加くださり、ありがとうございました。

それでは、表の4番、秋の交通安全県民運動ですが、初日の9月21日出発式の予定ということで考えております。現在準備中ですので、後日案内のほうをさせていただきますと思っております。

5番の自主防犯団体の集いは10月12日の15時からの予定で、議長、委員長には出席のほうをお願いしたいと思っております。

それと、8番、11月1日に緊急地震速報訓練ということで、チャイム音を防災行政無線で流しますので、各家庭、地区などにおいて身を守る行動の訓練をお願いしたいと思います。これにつきましても国のほうでの時間等がまだ設定が決まっておきませんので、広報11月号に載せる予定で今進めております。

9番、11月19日にはAMDA・赤磐市国際フォーラムということで、市とAMDAの取り組みなどのフォーラムをいきいき交流センターで行うということで、詳しい内容につきましては双方で現在調整中でございます。

それと、10番の11月23日、あかいわキラリ★安全フェスティバルをふれあい公園で行う予定ですので、よろしく申し上げます。

以上、総務部の説明でございました。

○財政課長（藤原義昭君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 藤原課長。

○財政課長（藤原義昭君） 財政課からは平成28年度末の基金残高等について御説明いたします。

財務部資料の1ページをごらんください。

一般会計の基金の平成28年度当初と平成29年度当初を比較した一覧表となっております。主な増減内容につきましては、3月議会に提案しました3、4、6、16の2枠4つの基金を廃止して、19の公共施設等整備基金を創設しております。また、11のつちのこ基金は廃止して、基金額は13の地域振興基金に積み立てております。18のふるさと応援基金は3月に創設しており、6月に各事業に充当いたしました。

次に、2ページは合併特例債の執行状況でございます。限度額、発行済額、限度額残高、発行可能期限をそれぞれ掲載させていただいております。なお、基金造成につきましては、3月補正を含め複数回造成し、発行可能が完了をしております。この基金造成は1ページの一覧表の13の地域振興基金に積み立てております。1ページの13の地域振興基金の増額、約4億3,000万円の詳細につきましては、合併特例債の3億9,580万円と一般財源の2,090万円を合わせた合併特例債基金造成4億1,670万円とつちのこ基金を入れたものとなっております。

財務部からは以上です。

○学校教育課長（松井啓子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○学校教育課長（松井啓子君） それでは、平成29年度岡山県学力・学習状況調査の結果について御報告いたします。

平成29年4月18日に実施されました岡山県学力・学習状況調査の結果が7月14日に新聞等に発表されました。別紙にお配りをしております山陽新聞の記事を資料に簡単に御説明いたします。資料はございますでしょうか。

まず、その資料の左上なんですが、テストの概要について示されておりますが、今年度から実施方法が大きく変わりました。これまでは中学校1年生を対象に県が作成した国語、数学、社会、理科の4教科の問題を実施していましたが、今年度から対象が小学校の3年生から5年生の国語、算数、中学校1年生の国語、数学、中学校2年生の国語、数学、英語となりました。

た。問題も県が作成していましたが、民間企業が作成したものが導入をされております。

本市の結果としては、学年や教科によって差がありますが、県平均正答率よりもマイナス3.5ポイントからプラス0.2ポイントの間となっております。全国平均正答率からも下回っている状況があります。現在、赤磐市の状況や成果と課題については分析をしております。

8月の委員会では詳しい分析の結果をお伝えさせていただきます。いましてお時間をいただけたらと思います。よろしくお願いたします。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） それでは、スポーツ振興課からスポーツ施設の運営状況について御説明させていただきますので、お手元の資料の1ページをお開きください。

平成28年度につきましては、山陽ふれあい公園とグラウンド・ゴルフ場、吉井B&G海洋センターについて指定管理を委託しました。

資料1から4ページにかけては、前年度と比較した表を作成しております。その利用状況の概要について説明させていただきます。

まず、赤磐ふれあい共同事業体が管理している山陽ふれあい公園等の施設利用について説明させていただきます。この表はふれあい公園の各施設の月別で前年度と比較して資料を作成しております。各施設を年間で見ますと、ほとんどの利用施設が前年度より利用者がふえています。これにつきましては、自主活動の各運動教室、トレーニングルームでの指導員の機器指導の実施、団体利用者などの定期利用の結果であります。フィットネスコート、桜が丘運動公園野球場、桜が丘運動公園運動場につきましては、天候等に左右されまして前年度よりやや減となっております。

続きまして、赤磐シルバー人材センターが管理しているグラウンド・ゴルフ場の施設利用について説明させていただきます。月別では前年度と比較して、天候等で多少の増減はありますが、ゴルフ場の維持管理の徹底、年間会員の利用回数の増加、月例大会の開催、利用団体及び観光会社への呼びかけ等を実施した結果、年間としては昨年度より増の3万7,014人の利用がございました。これは年間を通じてグラウンド・ゴルフ愛好者がふえている傾向でございます。

続きまして、資料3ページをごらんください。

平成28年度につきましては、吉井B&G海洋センター等の施設も指定管理を委託いたしました。ほとんどの施設が前年度より増加しております。これは自主活動での催し物、各運動教室、トレーニングルームでの指導員の機器指導、利用団体、また周辺市町への小中学校、湯郷旅館組合への利用の呼びかけ等の結果で利用増となりました。ミーティングルームの利用につきましては、前年度、市が管理してありまして定期会議等を開催しておったんですが、その分

がなくなったため利用減となりました。

3 指定管理者の管理施設とも天候に左右され、月別では多少減少している施設もございますけれど、自主活動での各運動教室、トレーニングルームでの指導員の機器指導、利用団体の呼びかけ等の実施もありまして、総合的には昨年度より利用が微増している状況でございます。

資料5 ページには、3 指定施設管理での主な自主活動の各種運動教室及び催し物を記載しております。

山陽ふれあい公園では、26の運動教室、グラウンド・ゴルフ場では年間会員の月例会の開催、吉井B&G海洋センターでは12の運動教室を開催し、利用増に努めております。

以上、スポーツ施設の利用状況について説明させていただきました。

○教育次長（藤井和彦君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 藤井次長。

○教育次長（藤井和彦君） 教育委員会からもう1点、2020年の東京オリンピックに向けました取り組みにつきまして説明申し上げます。

本日、資料のほうはございませんが、熊山運動公園の多目的広場にありますホッケー場を活用いたしまして、事前のキャンプ地誘致に向けて取り組んでいきたいと考えております。これにつきましては、平成27年10月に策定いたしました赤磐市の教育大綱につきましても積極的に取り組みを図るとしております。今後、議員の皆様のご協力、御理解をお願いしたいと考えております。オリンピックが近くなりましたので、来月の委員会で資料をお示しし、今後の企画案などにつきまして説明をさせていただきたいと考えております。

教育委員会からは以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 続いて。

○警防課長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、檜原課長。

○警防課長（檜原秀幸君） 平成29年度上半期の火災・救急の概要について御報告申し上げます。

資料1 ページをお開きください。

火災の概要ですが、平成29年度上半期における火災件数は11件で、同年同期より1件少なくなっております。火災種別で見ますと、建物火災4件、その他の火災7件となります。その他の火災の内訳は、枯れ草焼き5件、たき火の火の粉1件、火遊び1件となっております。損害額としましては、2,534万7,000円となっております。本年は前年と比べ、建物火災が3件発生したことがプラス2,523万7,000円の損害額の理由となります。また、火災による死者は1名発生しております。地域別発生状況では、山陽地域が5件、赤坂地域が2件、熊山地域が3件、吉井地域が1件となっております。

次に、救急の概要を報告いたします。

資料2ページをお開きください。

救急出動件数は896件、傷病者搬送人員は831人で、同年同期に比べ出動件数は36件増加。搬送人員は22人の増加となっております。事故種別で見ますと、急病が555件で全体の61.9%を占め、次いで一般負傷163件、18.2%、転院搬送78件、8.7%、交通事故83件、9.3%、その他17件となっております。その他の内訳は、運動競技、自損行為、労働災害、加害、水難、火災となっております。医療機関へ搬送された方の傷病程度は、軽傷が371人、44.7%で最も多く、次いで中等症310人、37.3%、重症129人、15.5%、死亡21人となっております。年齢別搬送状況は、老人が557人で最も多く、全体の67.0%を占めています。

次に、資料の3ページをお開きください。

おわびと訂正をいたします。

右の下、最下段の合計のところを35から45に訂正をお願いいたします。まことに申しわけございません。

平成27年10月1日から赤磐市民の病気や救急の搬送の要、不要などの不安を解消するために、経験豊富な専門家が24時間年中無休で病院相談に応じるあかいわ健康・急病相談ダイヤルを開設しています。これは健康増進課の事業ですが、消防本部も連携していますので、情報としてお知らせいたします。開設して現在までの消防本部における1年9カ月の実績を報告させていただきます。転送12件、紹介19件、救急14件の合計45案件に対応しています。

以上で報告を終わります。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうから説明が終わりました。

委員の皆さんに御協力とお願いいたします。本日、昼食もとっておりません。1時までやりたいと思っております。質問等いただいて、休憩、トイレ等行かれる方は各自随時行ってください。そして、スムーズに進むように協力お願いします。

それでは、ただいま執行部の説明が終わりました。

ただいまの説明について委員さんのほうから質疑ありましたらお願いしたいと思います。なおまた、その他で諮っておりますから、先ほどの視察の件はそこで入れていただいたり、その他に入れてもらうということでもよろしくをお願いいたします。

何かありませんか。どこでも、順番じゃなくてよろしいです。

皆、よろしい。

はい、大口委員。

○委員（大口浩志君） 済いません。婚活イベントについてお聞きするんですけど、この会場へどなたか行かれた方がおられるんですか。

○委員長（北川勝義君） 遠藤課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 済いません。どなたかって執行部ですか。

○委員（大口浩志君） はい。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 私以下、職員が行っております。

○委員（大口浩志君） よろしい。

○委員長（北川勝義君） はい、大口委員。

○委員（大口浩志君） 若い者と話をしようときに、婚活イベントは正直無駄なんじゃねんかと。理由は女性としゃべれんからひとり者なんじゃと。何をしゃべってええかわからんというような方が現実多いようなことをこういう年齢の方々からお聞きするんです。ふだんしゃべれる人は自分で捕まえてきとるといようなお話を聞くんですけど、それはどのように感じられます。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 確かに婚活イベントの回を重ねておりますと、なかなか、特に男性などは積極的でないなという方は、こういう言い方をしちゃいけません、イベントに何度も参加をされているという男性の方も見受けられます。今回のイベントなんかでも直接男女が出会う前に、それぞれ男性、女性別室で1時間、簡単なセミナーというようなものを行って、より積極的に話しかけたり、相手の話を聞いたりというようにこのポイントをお伝えをしながらイベントに取り組んでおります。

委員がおっしゃったように、イベントが全てではないというふうに私も考えておりますので、今年度、国のほうの交付金もいただくことになっておりますので、若い方の意識調査であるとか、企業さんなんかにも少しお話に入っていたらいいのセミナーなども計画をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（大口浩志君） せっかくやっとならるので、より有意義なものになるように現場の意見というか、参加者の意見を聞いていただいて、一緒に行くとって聞いとると、一生懸命しゃべろうとすればするほど、特に男性は女性に対してセクハラのような話になってしまいがちというようにこともやっぱり危惧をされとる方もおられるので、そういった面でのフォローもこれからはより考えてあげていただけたらと思います。

以上です。

○委員長（北川勝義君） その関連じゃけど、僕は言うまあかと思うたけど、結婚推進委員というのがあって、吉井が発端でやりようって、吉井、佐伯ぐらいちょっとやりようったかな。あとは余りやらんで、それがええとか悪いんじゃねえけど、昔のやり方で、単純に言うたら世話好きな人が釣り書きを書いてもろうて交換するというのが第一のあれじゃって、それがいろいろ事業で婚活というように言葉じゃねんじゃけど、カップリングとか今言うたような、いろいろそういうのできて、何ぼかなったんもあつたりすんじゃけど。やっぱりこれ、ええ、悪

い、ちょっと大変言い方が悪いんじゃないけど、余り募集の仕方がようねえんじゃないと思うんじゃない。それと、お金のかけ方も悪いと思うて。中途半端な、早い話が貧乏人の銭失いというんか、やりにきい。話は何を言よんならというけど、とんねるずやら何やかんやしようった昔じゃねえけど、この間も海か、やったりしようたんじゃけど、カップリングのやりようるときに、自衛官とこの間はやりようったんかな。やっぱり1泊2日ぐらいで来てもらうて、ようけ集めてやりますがん。じゃから、赤磐市も本当にするんじゃないたら、赤磐、和気とか、備前でもええ、男出る人出てくださいと、赤磐だけでもええんじゃないけど、和気でもして、そして女性は全国に1泊2日で来てくれ、ここのおかやま合同移住下見ツアーのところに書いとるようなA、B、Cコースじゃねえけど、1泊2日で来れるという、全然これ違う話なんじゃけど、赤磐には泊まる場所も余りねえとしても、鶴飼谷温泉に泊まれたりして、和気と赤磐と一緒にするとかというんで、そういなんで本当にカップリングというんかな、ぴちっとやってみたら大分できるんじゃないかと思う。来る人がおらんのに、中だけになってしまうというんかな。

何が言いてえというたら、僕が知っとる子でもこの間もちょうど16日、ソフトが終わったとき、優勝して1杯飲みようるとき、今回カップリング行かなんだんじゃいうて、北川さんカップリング行っても僕より年の大さきんばあでおえんのんじゃないというて、たまたま事前に見とったから、赤磐市で34歳ので女が33歳じゃって、ちょっと若かったでという話をちょっとしようたら、その子は35じゃったかな、その話ししようたら、北川さん若えのが余り来んしという話になったんで、ちょっと持っていく方というんかな、もっと大々的にやれというんじゃないけど、ことしは無理かもしれんけど、桃の時期じゃったら桃狩り来てくださいと、そこで皆さんの桃部会にも協力してもらうて、そこで桃を収穫しよう、食べてもうたり、一緒になんかするとか、ブドウのときでもええし、いろいろ考えていただきてえなという、ちょっと大きゅうしたらどんなかなというアイデアを、決まってここで和気と赤磐とか、備前とだけやるというようなことじゃのうてやってもらうて。何でこういうこと言ようというたら、前に成立したんもあるんですよ、今赤磐職員でも成立しとん。実際のこと言うたら、視察、旅行するとかというてしていったら、それで仲よくなったりして、深まってなったんもあるし、じゃからもうちょっと同じ人が同じとこばあ出てくるんじゃのうて、もうちょい輪を広げてやったらどんなかなと思うた。女性もようけ集めれるようにすりゃ。それにはお金も必要なということ言いたかったわけで、移住やったようなぐらい。鶴飼谷温泉でもええんじゃないけど、英国庭園でもええ、鶴飼谷温泉、ドイツの森でもええ。

こりゃええか悪いか、案でいうたら、昔は吉井町の是里でワインまつりやとったたら、場所だけは、男10人とか女15人とかで、25人ぐれえ焼き肉で宴会しようったときも、ワインまつりやりようるとき、そこへ場所を設けたんです。そうやってそこで交流してもうて、話をしようったというのもあって、なかなかそれは即結婚に結びついたというのは難しいかもしれんけど、いろいろなことがあったんで、今度赤磐でワインフェストやるときやこ、ドイツの森でや

るとき使うてみるじゃとか、ことしはもう遅い話じゃけど、花火やこうのときに場所を設けてあげるとかというのも一つの、単発で終わるんじやのうて、単発というんか、こっちが男として、こっちが女として、女来たとして、きょう1回だけの出会いで終わるがん。大体終わって、えかった、カップルになったならなんだというて。今さっきの大口委員の話じゃねえけど、余り前向きに行きとうねえ人がおったりすりゃ、こうじやのうて、花火のときはえかった、ソフトのときはえかった、何回か開催されよったらようなるんじやねえかなと、同じ人もおってもと今ちょっと思うたんで、そういうことは全然これから考えんのか。同じようなこんなことで婚活イベントしたら、何ぼかできるんかもしれんけど、余り意味ねえような気がしたり。どんなんかなと思うて。

それからもう1個。この婚活委員の推進委員を選ぶの。区長さんとか、いろいろあるんじやけど、もうむちゃくちゃなんが出たりしとるわけじゃ、人間さんが。ちょっとそういうなんを考えてほしい。今思うたんじやけど。それ決め方はどうやって決めとんかな。区長さんに言うて決めとんじやねえんかなと思うんじやけど。

その2点。

はい、遠藤課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長並びに大口委員さんからの貴重な御意見ありがとうございます。私のほうもこの単発の婚活イベントをやるだけでは行政として結婚支援、結婚推進を進めるという中では、もう少し何か手だてはないもんかなというふうにご考えておるところでございます。御意見をいただきながら、また検討していきたいと。具体的には、先ほど委員長のほうから花火大会なんかというのも御意見いただきました。本当に我々もそういう意見も出たんですけど、時期的に間に合うことができませんで、何か桃、ブドウ、イチゴなど収穫体験であるとか、アイデアはいろいろあるんじやないかなというふうにご考えております。

昨年度、男性はこちらのほうで赤磐市の方、女性を大阪のほうからバスで来ていただくというようなカップリングのイベントもやってみました。これも好評でございましたので、いろいろな今後事業のほうを検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

推進委員さんにつきましては、いろいろ御意見もあると思いますが、一組でも多くのカップルを誕生させようということで頑張ってくださいしております。区長さんなり、地元のタカハラ会長さん以下、御推薦をいただいたりしておるところでございます。よろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

ついでに、大口さんちょっと待って、要らんこと言うて。

これ岡山の移住下見ツアーのほうで下電ツーリストやこうやりょうるときに、下電がようや

ったりして、この間もこの話をしょって、専務やこうと話しょったら、やってもええという考えを持つとるわけ。下電じゃのうても、西の屋グループでもやってもええ言うたりする、いろいろ持つとるわけ、アイデアを。ただ、行政だけが単純にどっか使うてほんと集めてやるというより、さっきのテレビができりゃ一番ええこっちゃやけど、いろいろ難しいんかもしれん、何かやり方を、大阪から来たからええとかというの、企画したところがおみやあ物すごい、自分らの頭で考えずに。こればあ長う言ようたらおえんけど、とりあえずもっと今時分になって、やるころになって、花火が近過ぎる、そんなことはナンセンスな話で。

僕はいろいろイベントしょったときに言うたら、ワインフェストすりゃあ10月とか11月にする。僕はあのおとき11月にしようた。11月にするんじやったら、4月ごろから地元で会議をして、5月には誰を呼ぶぐらい決めてやりよったわけ。そうせなんたら、ええ意見が花火といったらことは間に合わんわ来年じゃ、来年には担当かわとったり、またそれで終わり、ポシヤる。何ぼかありゃ、そういう両備でもあるし、下電もあるし、近畿ツーリストもあるし、タビックスどこでも働きかけて、こうやってくれるのはねえかというのも一つ言っていくのも、それも仕事じゃねえかなと思う。プロのほうが募集してやったら大分、読売旅行とか何でもえんじやけど、どっかそうやりようるところを使うたほうがおもしれえかなと思うたんで。今後、勉強してやってください、どうこう言うんじやねえんですけど。

それで、次のこと、時間がねえんじや話しすりゃ、赤磐のフォトコンテストのときに、あと全部赤磐市の新聞や雑誌、広告のホームページ使えると言うたんじやけど、僕は、もしええのがあったら、ええのがなかったらおえんのんじやけど、ええのがというたら言い方悪いけど、赤磐市の使える、要するにこれじゃ、モモちゃん悪いやこ全然言ようらん、モモちゃんええんじやけど、モモちゃんばあじゃ、宣伝かもしれん、ここでもええんじやけど、どっか入れて使えるようなんがあったら使うていただけりゃええんじやねえかなと思って。やっぱり一過性で終わらず、また次の年も使えるんじや、こういうことを2年後にやりようたら使えるから、やりてえという物すご気持ち前へ出てくると思うんじや。できたらそういうこと1点考えてほしいというのが僕の気持ちで、どれがええかというて言う話じゃねえんじやけど、そういうことも大事なんじやねえかなと思ったんじやけど、そこらどう考えられとんかなと思うて、ちよつとわかりゃあ。

○秘書企画課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○秘書企画課長（小引千賀君） 貴重な御意見ありがとうございます。今おっしゃっていただいたような、先ほどの封筒を言われてるんだと思うんですけども、先月の委員会でも少し説明をさせていただきましたように、今回応募いただいた作品については、市の貴重な財産になるものだと考えておりますので、このポスターやチラシだけではなくて、いろんな方法で使用ができるということで、これから模索をさせていただいて、検討をさせていただく予定にして

おります。

○委員長（北川勝義君） わかりました。

次、下山委員。

○委員（下山哲司君） 市長にお尋ねするんですけど、通院支援バス、これ一つ言うんじゃねえんじゃけど、何年か前から赤坂の医院はなくなるからそれに対しての準備をしとかにやいけまあとこの話を私がした記憶があるんじゃけど、のうなってからの準備のように思えるんですけど、医師の確保のほうの話といたら話が違うんじゃろうけど、体制についての問題でお聞きするんじゃけど、そういう体制を事前、事前に察知しとんじゃから、対応をとらにやいけんのじゃねえかと。僕はそう思うて前にそういうことを質問しとったんじゃけど、やはりもう少しバスの手当てをすりゃ済むというんじゃなしに、全体の計画をどういうふうに考えてこういうことにするというのを示してほしい。ただ、今の現状に合わせてのバスじゃなしに、バスをするにおいても次の対応をどういうふうに考えてからこういうような姿勢を示してほしいと思う。それを市長のほうからお願いしたいんですが。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） ありがとうございます。

今のお尋ねは、通院支援バスを今回運行するわけでございますけども、その話と少し違ったところになるんですけども、下山委員のおっしゃるとおり赤磐の医療については根本的なところを言いますと、やはり赤磐市にある診療所、こういったところへの常勤医師の増員、これは急務であり、これについては近い将来に実現しないといけないことという認識でございます。それと、今回の通院支援バスというのは、あくまでもこれは赤坂の森先生がお亡くなりになって、非常に不安を訴えておられる地域の方々、それから赤磐医師会の御協力によって仁美の診療所のほうで、この森先生にかかっておられた患者さんを診察していただけるということが実現しております。これを利用されるの方々にとって不便のないようにということで、この支援バスの運行を再開するわけでございます。

それとは離れたところになりますけども、医師の確保について、これは岡山市内の大きな病院とか岡山市の岡山大学とかそういったところから協議をするような形で、医師の確保について協力を求めて協議させていただくようにしております。そういう中で、重要なのは赤磐の医師会あるいは医師会病院、こういったところとの連携がうまく図られていくことが重要というふうに見えてきております。そういったことを念頭に置きながら、これからも活発に動きをしていったらということで覚悟を決めてやっております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） そういうことでお願いをせにやいけんですけど、もう少し赤坂のとか、なくなった地域に関連しとったとこのアンケートをとるとか、城南地区でも2院なくなっ

て、1院できたんじゃないけど、内容的には機械も置いとらんし、ただ診るだけ、先生が。住んでもないし。以前からいえば、能力的には4分の1も、5分の1もというような内容なんです。だから、全体にこういうことを踏まえた中で、全部よくなるような方策を、全体的な方策を考えてやってほしいというのを要望をお願いをしたいと思います。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 前向きな御意見ありがとうございます。

今回、赤坂地域と仁美地域について、特に森先生にかかっておられた方、それから周辺の地域の区長さん方を初めとした方々への聞き取り、それからアンケート調査、こういったものを実施するようにしております。ヒアリングについてはもう終えております。そういった声を吸い上げてこのバスの運行等も考えてきたところです。

それから、特に仁美の診療所ですけども、これについて設備のほうが御指摘のとおりです。また、建物も老朽化しているということもございます。こういったものを少しでも解消できるように、改装工事、あるいは仁美の診療所であれば今までレントゲンの設備がなかったので、これを導入しようということ、それから佐伯北診療所へはCTスキャナーを配備して、この地域、広範囲において医院や診療所と連携をしながら活用をして、安心につなげていく。こういったことを今年度予定させていただいております。今後も意見をお聞きしながら少しでも充実していけばということで実施をさせていただきます。御提言ありがとうございます。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） やっぱり1つだけ不安なのが、小さい診療所に先生を派遣して、時間的な派遣しかしてもらえんわけです、小さかったら。だから、ある程度のをあれして、先生が常駐できるような体制をとらんかったら、派遣をしてもらえんと思う。だから、そういうことを踏まえて頑張っていたきたいというふうに思います。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（下山哲司君） はい。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

○委員（松田 勲君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、松田委員。

○委員（松田 勲君） 濟いません。私のほうから、さっき委員長からちょっと話が出ましたけど、移住下見ツアーの件ですが、まち・ひと・しごとの件です。これすごい連携協定のもとで始まったツアーだと思っています。いいことだと思うんですけど、ただスケジュールを見たら、赤磐市が2日目なんですよ、これ。行くところが桃の収穫とドイツの森、おためし住宅ということで、いいんですけど、これ見たら対象が子育て世代の方です。子育て世代でいうと20代後半から30歳ぐらいのお父さん、お母さんと子供さんと、もうちょっと大きいんかもわからんですけど、となると気になるのが、やっぱり学校の関係とかだと思うんです。和気のほ

う見たら、特区的関係もありますから公営塾の見学とか、便利という意味では駅周辺の買い物関係とか、学校関係エリアとかを入れてるんです。でも、赤磐はどっちかといえば、観光に近いような桃の収穫とかドイツの森とか、そういったことが全面に出てるんで、それはそれでいいと思うんですけど、やはり住むとなると子供抱えた方だと学校のこととか、教育を初め福祉のこととか、そういったことが気になると思うんですけど、これには資料として何かお渡しするんでしょうか。例えば、赤磐においては学校はこれだけあるよとか、小学校、幼稚園、今度認定こども園もできましたし、こういったことの和気にはないものがあるわけです。だから、そういったことをアピールする資料とかそろえて当日にお渡ししたりとか、説明したりする予定があるのかどうか、ちょっと教えていただきたいです。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 遠藤課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 御質問ありがとうございます。チラシの裏面にご覧いただけますように、松田委員おっしゃったように、赤磐市のほうでは、まず前日、岡山市から和気町で鵜飼谷に泊まられて、和気町を北へ上がられましてから、北部から赤磐市のほうへ引き継ぐような形になりますので、西山ファームさんで、せっかくのいい時期ですから桃狩りを楽しんでいただき、子育て世代の方にこのエリアで、岡山、和気、赤磐でゆっくりと余暇を過ごすことのできる場所ということでドイツの森を選ばせていただいております。そこで先輩移住者の方とランチをとりながらいろいろなお話をさせていただこうと思っております。

それから、せんだって御案内をさせていただきました吉井地域、石、仁軒屋のおためし住宅を御案内をさせていただいたりしましてから、バスが南下をしまして、岡山駅のほうまでお送りするというようになっておりますので、この道中には赤坂の認定こども園を御紹介をしたり、ネオポリスのほうも回らせていただいております。また、この行程には、全て岡山市からのスタートから私どもコンシェルジュのほうもバスのほうと一緒に乗らせていただきまして、随時質問等にもお答えをしますし、資料のほうもしっかり用意をさせていただいております。

今のところ、関東から3組、関西から3組の方が子供さんをお連れになって御参加になるということでございますので、委員さん御指摘のようなあたりはしっかりとPRをしていきたいと思っております。ありがとうございます。

○委員（松田 勲君） はい。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） ぜひやっていただきたいんですけど、ターゲットが子育て世代なんで、子育てに関する情報がもっとわかりやすく、資料つくるなりして、関東と言われたけど、関東からといったら待機児童がないという部分では大きなポイントだと思うし、保育園とか認

定こども園とか小学校含めて、こんだけたくさんあるんだよということで、そういったイメージも湧くようなところを載せていただきたい。便利な田舎暮らしというのが、どういうふうなことを求められてるんか僕はようわかんないんですけど、田舎だと便利がイコールにならないような気がするんですけど、それでも田舎暮らしがしたいという人の、ユーザーの求めるものが何かというのをもうちょっと情報をつかみながら、もう20名決まってらっしゃると聞いとるんですけど、どういったことを見たいのかというのを下調べをしながら、それに合った情報を流してあげないと、岡山市から和気、赤磐となるとどうしても比較をされると思うんです。その中で赤磐のよさをもう少しアピールできるものを出していただきたいなど、こういう田舎もあるし、こういったこともできるんだよと。便利な意味ではこういったお店もたくさんこういうところありますよとか、こういう住宅街もありますよとか、いろんなパターンがあるのが赤磐だと思うんで、そういったものをもっともっとわかりやすく出して、ぜひつくっていただければなと思っておりますが、もう一度その辺いかがでしょうか。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 遠藤課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） ありがとうございます。現在、このツアーに御参加いただく方にお配りする資料なども、少し断線をしております。済いません、赤磐市の魅力をしっかりとアピールできるような資料もおつくりをさせていただいております。ありがとうございます。

○委員長（北川勝義君） 20名いっぱいになつると言うたんかな。6組じゃねえんか。6組か、2人で12人、子供も入れてということか。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） そうです。

○委員長（北川勝義君） そんなことなら、そう書かにやおえんわ。20名じゃのうて。何人で何組にせなんだら、託児所をつくつとるからというて。6人のために全部するということになるがん。6組のために、そうじゃろ。6組中心でやるようなもんじゃが。ちょっと矛盾しとるような、まあよろしい。

○委員（松田 勲君） 委員長、もう1点、いいですか、済いません。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） もう1点、済いません。スポーツ施設の関係でございますが、吉井のほうで料金をたしか統一するという話、去年、おとしだったか、なりましたよね。これが28年度が多分そうだと思うんですけど、実際その料金の問題とかというのは今のところないんでしょうか。この人数見たらそうなんですけど、ただ月によってはかなり300何%とかとなってるんですけど、これ合計したら前回よりもちょっと上乘せみたいになつとるけ、月によってかなり差があるんです。だから、その辺がちょっとどうなのかというのがあるんですけど、料金云々という話はなかったんですか。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 料金につきましては、ここにお示ししていないんですけど、昨年度よりは微増でふえております。といいますのが、先ほど説明させていただいたとおり近隣、周辺の小中学校とか湯郷の旅館のほうにいろいろと利用していただきということで施設のアピールに行ったりします。それで、お金がもらえるところに連れてくるような感じで施設のほうも有効利用させていただくというような次第でございます。

○委員（松田 勲君） 聞いとることと違うと思うんじゃないけど。

委員長いいですか。

○委員長（北川勝義君） はい、松田委員。

○委員（松田 勲君） 利用料の統一を図ったでしょ。例えば、桜が丘球場と吉井球場と値段が違ってたのを統一を図ったじゃないですか。その影響はあるのか、ないのか。そういった声を聞いているのか、聞いてないのか。そっちのほうを聞いてんんです。人数がふえたとか、減ったとかという話じゃない。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 今のところアンケート等をした結果は、利用料が高い云々というのは聞いてないんですけど。

○委員（松田 勲君） 影響はないんですね。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 今のところ、はい。

○委員長（北川勝義君） ちょっとその関連じゃけど、この間も16日か、壮年ソフトの試合しようるときに、市長も来られたけど、テニスのグラウンドはいっぱいじゃったろ、B&Gのところの、当日が。大体、土日というたらいっぱいになってやりようるわけ。近隣の市町村というんか、練習試合したり、練習来るというんで、じゃから吉井中学校の生徒も行きよったんも、学校の先生がきょうは放課後はせんどというて、自分でお金出して行きよって、相当使われと思う。それだけに、施設に金かけてやっとなるからできるんじゃないと思うし、やり方として自信を持って、さっき言った観光地じゃねえけど、PRをしてもうて、こうできますよというて言うたら、テニスやこうじゃったら絶対ええと思うし、やっぱりちょっとやっても。

それから、吉井中学校のプールのときに何か勘違いしたけど、温水プールじゃ、温水のとき休みよってというのがあるけ、勘違いのこと。古い話の、議員さん間違うたことばあ言ようる議員もおったりするんで、ただこんなこと言っちゃおえんじゃないけど、あそこのときに使うのが物すごく管理し出してからようになったと思うんじゃないけど、下のグラウンドじゃあなあ。特に広場というんか、グラウンドというんか、あそこのグラウンドはどねえなりょんかな利用率というんが。何か一時期、下山さん覚えとる、ナイターの云々ということをちょっと言うたこと

があった、言われてきたことがあったが、野球の。あれどねえなっとんかな。

○委員（下山哲司君） ナイターできん。

○委員長（北川勝義君） あれ以後はもう問題のうなったんかな、全然。何も後やりてえというて、どんなんかな。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） お手元の資料の4ページをお開きください。吉井グラウンドのほうの月別の利用件数と利用者数をさせていただいております、これにつきましても27年度と比べて28年度のほうが……。

○委員長（北川勝義君） そりゃわかっとんじゃ。問題ねえんじゃな、もう。問題ある、ねえといやあ、ねんですねっという話ししょん。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） はい、今のところ問題はなく、あと利用者に応じてそのグラウンド等を……。

○委員長（北川勝義君） なってねえということじゃな。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） はい、今のところ。

○委員長（北川勝義君） よろしい。

ちょっと待ってください。

それからもう1個、2ページの西山グラウンドのことなんじゃけど。前年比103%でふえていって、ずっと頑張りよんじゃけど、あそこネットで、ナイターがあつたら練習はええけど、試合はしちゃいけないというて、対外試合とか練習試合したらいけないというけど、そんなばかなことがあるもんか。家を建つとるとこ後から来られてから、ああじゃこうじゃ言うとなんで、そんな不条理な話はねえと思うんじゃけど、これが指定管理されてねえ西山グラウンドが今赤磐教育委員会というて赤磐市がして、さしよる施設じゃから、びちっと対応すりゃええと思うんじゃ。今小学校があるところへ僕が家を建て、小学校やかましいから外の運動はしてくれたら困ると僕が言うたらやめるんかな、そういうトラブルあつたら。そんなもんじゃなからう。そこらちょっとおかしいと思うんじゃけど、これ前ちょっと言うたんじゃけど、そのうちまた請願が出るんかもしれんけど、びちっとしてやりようるし、話も聞いたら、すばらしいというんかな、練習もおえんからというんじゃつたらわからんことはねえんじゃけど、試合はおえん、練習はおえんと、かえって試合したりすりゃそこへ青少年じゃから特に頑張られるときはパンフレットも置いとったり、赤磐市のさっきの婚活の話は別としても、地域移住でも何でもしとつたら、よそから来てくれてしょうる人が赤磐はええなというてこっちをという、ほとんど皆無かもしれんよ、そりゃ答えは。ゼロかもしれん、来るのは、実績は。そういうこともできると思う。いけん、いけんじゃのうて、こんだけ利用しょうりゃ1,500人もふえてきてずっといきょうりゃ、1,600人かふえるというたら大事なこっちゃねえかなと思うて、ちょっとそ

こらも考えてもらいてえなと思う。その進展はどうかなっとんか、わからんならわからんで今答えれりゃええんじゃけど、もしわかったら教えていただきてえなと、ちょっと1個だけ。

それから、そのことが1点です。その絡みがあるんか、一緒か。

○委員（松田 勲君） さっきの。

○委員長（北川勝義君） 一緒のことか。一緒やったらやめらあ。もう1個はもう1個で答えていただけるように。外部監査制度のことをしきりに言ようった、何がしてえんなら、どうするんなら、何が目的なん。今百条委員会がどうのこうの、わけがわからんのじゃけど、何が言いたかった。それは後でええ、松田さんがまたもう1個聞いた後、別でええから。ちょっと僕余り時間とっちゃおえんと思って、気になりようた、再度言って。

土井課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） それでは、西山グラウンドの件でございますけれど、先ほど委員長が言われましたとおり、なかなか今、練習試合は禁止させていただいておるとい状況でございます、地元の利用団体とお話しをしながら、なるだけ早急に利用できるように協議させていただいておる次第でございます。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

ちょっとあんた頭おかしいで。自分とこの土地で自分とこが今まで使よったとこへ、今度は協議するん。そんなこと今ほんならありか、ほんなら僕がそこへ家建って、ちょっとやかましいけん、ちょっと授業やめえと、陰になるけえ、あそこの3階を切れ言うたら切るんか。例えばの話したら。そんな話じゃなからうがという話ししょんじゃ。皆が使えるようならぴっと、教育長期待しとりますから、話をそのくらいぴちっとしてくださいよ。遊び半分な利用率がええじゃ言われたら、協議しよる、協議は今に始まった話じゃねえんじゃ、何遍も言うてきとんじゃ。これはいろいろな人にかかわった、職員や議員にかかわったりすることじゃけやめた。ええかげんなこというたら、ええかげんな話でおる者は都合のええような話を持ってきよる。そうじゃねえ。僕らも事情はよう知つとる。絶えず、山陽のことまで口挟まんでもええと思うて、挟まなんだ。じゃけど、やっぱり同じように公平にやっっていくんじゃったら、やっっていくべきじゃねえかと思うて。この人が、親御さんが一生懸命よそへ出ていく言うた。遠征とか、例えば、前言うたのは、なぜ料金のことというたら、松田委員がこれから後から言われようとしよる、よそへ行ったらお金がかかると、中で使えて安いから行くんじゃと、あえてという話もあって、いろいろあったわけ。練習試合をよそへ行きよったら、高うお金も要るわけなんじゃ。これが狭うてできんとか、何らかのありゃええけど。後から来た人が文句言うて、ああじゃこうじゃ、そういう話じゃねえんじゃねえんかなと思うた。これは教育長、ぜひ解決してください。

松田委員。

○委員（松田 勲君） 僕のほうは桜が丘野球場の件なんですけど、この前も中学校の東備リ

ーグというのかな東備のトーナメント、桜が丘球場でやってました。新聞にも結構出てたんで、すごいなと思って。毎回、結構市内の中学校も頑張っておられるんです。

ただ、前から言ってますけど、ちょっとずつ整備されてるんですが、やっぱりせっかく東備で集まってやってくれる場所なんで、もうちょっとずつ計画を立てながら、もう少し整備をしていただきたいなど。見てもらったらわかるように、今はあれかもわからんけど、外野のグラウンドのあたりなんかはコケが生えていたりとか、草が、月によっては伸びてたりとかというのものもあるし、雨漏りがする場所もあったりとか、ベンチなんかは。そういったところもあるし、だからいろんな整備する。せっかくあんだだけ観客も座れるような球場なんです。それって意外と珍しいんです。だから、そういった意味で選んでくださるとは思うんですけど、高校野球までいなくても、中学校が大会をするんだったら、それを迎えられるようなもうちょっと整備を、トイレなんかはきれいになったんですけど、そういった整備を心がけていただきたいなど。さっきの委員長が言われたんですけど、ほかと比べたらちょっと高目の設定になってますんで、その辺をよろしくお願いしたいと思うんですけど、どんなでしょうか。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 桜が丘球場の状況を調べまして、なるだけ皆さんの使いいように修繕等をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○委員（松田 勲君） もう1個よろしいですか。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） だから、その桜が丘球場と横の多目的があるじゃないですか、野球の試合するときには両方借りにゃいけんって、今もそうなってるでしょ。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） そうです。

○委員（松田 勲君） ボールが飛び出るからということで、危ないからということで。そういったことも、両方借りなくちゃ、両方借りるお金は出さなくていいかもわかんないけど、その辺があるんで、大きな大会になったら、横のグラウンドでウォーミングアップとかいろいろしているんです。小学校、中学校になったら逆に何試合か同時にできるような、スポ少なんかができるようになっておるんです。だから、その辺を含めてフェンスを何とかするとか、もうちょっと安全性を高めるなりしていただけたらなと思うんですけど。現場を見てください。お願いします。

○委員長（北川勝義君） 教育長、市長、今のような使うてもろうて何ぼのもんじゃし、ぴちっとしてもらいてえんで。じゃから、やっぱりええように利用できるようにしてあげてほしいということと言よんで、西山グラウンドにせよ、今の桜が丘グラウンドの整備も皆やるのをびちっとしてもらいてえということで、せっかくええとこじゃって来てもうたほうは何やかん

やなるんじゃねえかということを書いてえんで。僕は、山陽地域の人が何やかんや文句言うて、ああじゃこうじゃへ講釈ばあ言うんじゃけど、吉井に比べたらでええええが。夜は図書館もあいて、いきいき交流センターも光りよってずうっと楽で、うちら真っ暗で何もあらへんところ使うところがねえというんでも、いたし方ねえ。それも我慢しとん。税金も同じように払いよんじゃけ、市民税も。その辺、ああじゃこうじゃ言わずに、みんながそういうこと出んように、不幸の出んように、土井課長、していただきてえです。ここがええじゃ、悪いじゃというて。うちらでいうて吉井中学校の跡へ家を建ててきた者がおって使わせえとか、何を言よんなどいうて怒られてしまうで。そんなん学校の行事に使うんじゃったらええけど、消防や操法やこう全く論外じゃいうて、操法やこう明々と電気つけて、それも地域の活動の一つじゃから認めとんじゃけど、そこら余り言ったらおえんじゃねえかなと思いました。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） ええ、もう1件だけ。さっき視察へ行かせてもろうたんじゃけど。

○委員長（北川勝義君） そりゃあ視察、後。

○委員（下山哲司君） 後。

○委員長（北川勝義君） その他じゃろ。外部監査のほうがあつたら、外部監査。

○総務課長（原田光治君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○総務課長（原田光治君） 外部監査制度につきましては……。

○委員長（北川勝義君） 違う、違う。よう質問聞いてくれたんじゃろ。

○総務課長（原田光治君） はい。

○委員長（北川勝義君） 外部監査、外部監査というて言よるけん、導入しとうてやるんか、何が目的。今言うた、百条があつて、何かどうのこうの、云々というて、そんなことはどねえでもええ話。するつもりがあつて言よんか、せんつもりがあるんか。瀬戸内がしとるけんやるんか、備前と瀬戸内が外部監査で。瀬戸内と備前とはだましたんで、赤磐市を。ごみとか何やかんやいっつもやりよんで、同じことを。瀬戸内がやとるけえ、瀬戸内の武久さんとのまねする必要はありゃへん。何が書いてえんな。監査委員がおるけん、僕は余り言わなんだ、言わんつもりでおったけど、あえてどういうつもりなというた。前の監査委員は余り、ええとか悪いとか別で、何か言うて聞いてねえそねえなことはというて怒るばあしようた。今回は聞かれとると思うけど、監査委員。何らかの意向を聞いてもらう。たつたつた前もって先へ先へ前へ出されてやるんか、ようわからん。メリットはあつてデメリットはねんじゃな、皆これやったからというて。やっぱりそうなるんで。じゃけ、市長でもええ、こういうふうな勉強しようんじゃったら勉強しよんでええけ、どねえなんならいうのを聞いたかったわけ。ようわけがわからんの。僕らもしあつたら、監査委員がこうこうじゃというて話もしてくれると思うん

じゃけど、ねえから、どういうことかな。それを聞きてえ。踏まえて答えて。

原田課長。

○総務課長（原田光治君） 具体的な例を挙げて御説明させていただきますと、水道メーターとかの……。

○委員長（北川勝義君） もう聞いたがな、そりゃさつき。違う。そんな話をしようらん、僕の聞きよるん。

○委員（松田 勲君） やるつもりでおるんか。

○総務課長（原田光治君） 今後のスケジュールとしましては、9月議会に条例案を上程させていただきますまして、制度の導入を図りたいと考えております。それを踏まえまして、来月の8月の委員会では条例のほうを調整しながら出していきたいというふうに思っております。

○委員長（北川勝義君） ようわけのわからん話を。来月8月に出しゃええけど、僕は納得いかんよ、こんな話。わけのわからんことを出してから。瀬戸内市がやっ取るけえ、ええとか。ちょっと待ってよ。

○委員（大口浩志君） 具体的に、いうのが委員長が言よんのと答えが全然噛みおうてねえがん。

○議長（金谷文則君） 委員会しょんじゃろ。

○委員（松田 勲君） 委員会中じゃ。

○委員（大口浩志君） 委員長言った質問と答えが全然噛みおうてねえがん。

○委員（下山哲司君） おい、えんか。

○副委員長（永徳省二君） 今の質問に対して……。

○委員（下山哲司君） 本人がおらんのじゃから。

○副委員長（永徳省二君） ですよ。

○委員長（北川勝義君） もう一遍答え、僕の言いてえのは、そんな話をしょんじゃねえ、全然。何のためにこれをやるんならということ聞きよんで。監査委員にはもちろん相談して、こういうことのやり方でやらせてもらいてえんじゃとか、議会でいうたら、これ議長にも怒ったんじゃ、勝手に備前やら勝手にすなと言って、議長対談とかなんとかで。そういうんじやったらおまえ一人でせいというて。勉強会でやらせてもらうんじやけえというて、それだったら仕方ねえというて、議長の権限でやられるのはというて、議長の権限で勉強しょんか。これ議長の権限で勉強する話じゃねえんじや。市長の権限でするんじやったらやりんせえ。監査のことじゃけ大事なこと。皆、監査委員はもちろん知っとして、議会なら議長にも相談して、今議長、副議長ようわけわからんけど、委員会でも議運でもやりよんじや、何とかなかかって。出すよ。そねえな簡単なやるんじやったら、おめえらでやっしまえ、おめえ。メリットは何ならというて、メリットは今、あんたらのメリットばあで、百条委員会がどうしたんな、気に入らなかけてもらやええがな。かけた者が恥をかきよるだけじゃがな、別に構やへんじゃねえか、

やらにゃおえんことはやってもらやあ。そこんところをちょっとよう考えてやってくれよ、おめえ。それを踏まえて説明してくれというんじゃ。原田課長がすんか、前田部長がするんか、市長がするんか、ちょっとしてくれえ、わかる説明を。来月条例、9月に条例案を出してやるんじゃというて、やりやええがな。そねえ簡単に何でもかんでも。あんたらせえで簡単にさせて、もしこれが皆さんに理解してもらえなんで、否決されたら、そりやええんじゃ、また出しやええがなと言うたり。プールじゃとか就農支援センターに出しょんとは違うど、話が。よう考えてやらなんだらいけんで。今そう思うたんじゃけど、それを踏まえて答弁して。

○総務課長（原田光治君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○総務課長（原田光治君） これ……。

○委員長（北川勝義君） さっき説明したことはええっちゃ。どういう考えするかという。

○総務課長（原田光治君） 基本的には監査委員の方で全ての機能を満たしているんですけども、その監査委員の機能を補完するための制度であります。

○委員長（北川勝義君） ほんならもっとええのせえや。わかった。ほんなら、もっとええのせえ。今のやりようの複式の貸借対照表見るようなことをせずに、普通の会計処理をせえ、赤磐市全体を。会計処理、東京とかやりようのようなことやってこいや、おめえ。そういなことはやらんのだんじやろうがな。何が補完がええんなら。ほんなら、それをしたんで監査機構つくって補完します。それやってもらわな、皆やってしまわれえ。これから、岡山市とか東京とか弁護士とか、例えば言やあ公認会計士が、そねえな者だけで赤磐市の行政何かやってもらわれえ、監査何やかんやするのは。議会も監査する必要ねえが。監査委員も要らんがな。

○委員（松田 勲君） 全部監査するわけじゃない。

○委員長（北川勝義君） わかる、言ようることはよ。そんなこたあ、子供じゃねえから、前も何遍も言よったから。やってもらいんせえ、そういうことがええと思うんじやったら。簡単に上げる上げるというて。市長答えてください。ようわけわからん、今ええことを言ようりや。

○総務部長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 前田部長。

○総務部長（前田正之君） ただいま総務課長のほうが説明いたしましたが、現在監査委員の方に監査をお願いしております。そのほか、今こういった今日の中で、いろんな案件が出てくる中で、それを監査委員の方々の補完的な一つの制度としてこういったものを整備したいというのが今回の狙いでありまして……。

○委員長（北川勝義君） わかりました。よろしい。

弁護士を2人入れたのは何なら。弁護士2人雇うて、こん中事務やるからというて。その2人の弁護士がおるんじやねえんか。総務へ1人と、総合政策1人。その人らとそうすりやええ

んじゃねえんか、相談すりゃあ。ある程度できていくんじゃねえんか。そのときにはそういう言うて、そうやって補完的なことをやってもらうって。ほんならまた、それじゃおえんけえ、今度は監査の、それじゃったら監査委員決めるって監査委員は要らんけん、うちらそれをするけん。あんたらが先へ先へ何でも決めてやる、やられえ、僕は何も知らん。議運でも議運の委員長はここへおられる関係で総務の関係でも、空家対策のやこうでも産業建設から1名出るようになったというて、そりゃ出りゃええ、そりゃ。そんな話……。

○委員（下山哲司君） 委員長、そのくれえで……。

○委員長（北川勝義君） ちょっと待つて。執行権の話じゃねえ、違う。我々が聞いとらんが。ほんなら、執行権の話、知ったかぶりのことを言ようる。こんなもん全部執行権じゃ。執行権というのは全部じゃ。ただ、これ言わにゃ、説明おえん。勉強せにゃおえん、下山さんも、執行権、執行権というて。悪いけど、そんなことができるんだったら、皆やりゃあええ。やってください。

副委員長、進行しようってください。

答えんのんじゃもん。もうよろしい、答えていただけにゃ。あんたらだけ思うたようにやってください。8月に説明してやってください。

以上、終わりです。

他にありませんか。

永徳委員。

永徳さん、進行しようって。

○副委員長（永徳省二君） 教育委員会のほうに質問させていただきます。

7月15日付の山陽新聞社の新聞記事があります。低学年ほど全国を下回るということで、この要因分析をされて8月にまとめられるというふうに先ほどお伺いしましたけれども、私の認識からいうと、これはことしに始まった話じゃなくて、去年もおととしも、恐らく全国平均より下回ってたはずではないでしょうか。恐らくそうだと仮定すると、当然何らかの施策を打ってこられたはずです、過去に。その施策を打った上で、現在、ことしこうなってるというのが、結果論やというふうに私は思うんですが、過去どういう施策を打たれて、その効果がどう出てきたのかというところを御説明いただきたいというふうに思います。

○学校教育課長（松井啓子君） はい。

○副委員長（永徳省二君） はい、どうぞ。

○学校教育課長（松井啓子君） ありがとうございます。新聞に出ているのは、県のものということですので、県全体の施策の話をさせていただいたらよいのでしょうか、それとも市のことということで取り上げさせていただいたらよいのでしょうか。

○副委員長（永徳省二君） 市の話もしていただきたいですし、全国ベースで見た県の話、県下で見た市の話というところで話をいただければというふうに思います。

○学校教育課長（松井啓子君） はい。

○副委員長（永徳省二君） はい、課長、どうぞ。

○学校教育課長（松井啓子君） ありがとうございます。県のことまでいとなるとなかなかちょっと全部がお答えできるかどうかかわからないのですが、先ほども御説明をしましており、この調査につきましては、下学年で初めて実施をさせていただいている現状がございます。ですから、これまでは全国的な調査というのが小6、中3、それから県の調査が中1で実施をしておりました関係で、全国的に下のほうの学年を比較をしたことはございませんでしたので、ここになって初めてこの数値として出てきたというのが実情でございます。

そこも踏まえてということで考えさせていただけたらと思いますが、県のほうも学力の向上ということで、まず授業改善が1番だろうということで、授業改善については県のほうでもさまざまな取り組みをしております。例えば、授業の基本を示すようなものを全県で取り組んでいこうということで、小学校、中学校も、赤磐市もちろんそれにのっかって授業改善を進めてきているところです。また、家庭学習の時間が随分短いということも課題として出ておりましたので、そのあたりについても家庭学習の手引き等について、県のほうからも示されておりますし、赤磐市でも中学校区を単位にしながら、そういったものについては取り組みを進めているところではございますが、時間数は少し延びておりますが、十分な結果としてはまだ得られていないというのが現状かと思えます。

済いません、簡単ですが、以上でよろしいでしょうか。

○副委員長（永徳省二君） 済いません。去年の同じようにこういう新聞にも赤磐市の学力が結構低いという話があったというふうに私は記憶しているんですけども、去年もそういう状況ですと、要はそこで何の手を打ったんですかと、どういう手を打ったんですかと、手を打った上で、ことしもうですよという結果論だと思います。だから、手を打ったのが、打った手が合ってるのか合っていないのかということも分析しないといけないというふうに思うんですけども、その辺いかがなんでしょうか。

○学校教育課長（松井啓子君） はい。

○副委員長（永徳省二君） はい、どうぞ。

○学校教育課長（松井啓子君） おっしゃられるとおりかと思えます。それについて今分析中でございますので、また8月には分析の結果をお出ししたいと思っておりますので、少しお時間いただけないかと思えますが。

○副委員長（永徳省二君） ということは、去年までの結果に対して、施策というか、対策は打たれなかったというふうに考えてよろしいんでしょうか。

○委員（松田 勲君） 産官学のあれで。

○委員（下山哲司君） そればあじゃねえ。

○学校教育課長（松井啓子君） はい。

○副委員長（永徳省二君） はい、どうぞ、課長。

○学校教育課長（松井啓子君） 施策としてはいろいろと打ってきておりますが、それが本当に十分成果が上がっているかどうかということについての分析を今やっているところですので、申しわけありませんがもう少しお時間をいただきたいということです。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○副委員長（永徳省二君） はい。対策に対してどういう効果があったのかというのをぜひ具体的に分析していただいて、御報告いただければというふうに思います。よろしくをお願いします。

○学校教育課長（松井啓子君） ありがとうございます。

○委員長（北川勝義君） あんたらも簡単に報告するじゃあ、できるじゃあ言よったらおえんど、おめえ。できりゃあへんことあるうがな。学力がこんな調査ができるんか、そう簡単に。

○委員（下山哲司君） 対象が変わっとる。

○委員長（北川勝義君） 簡単にそないな報告ができるというて、できるんかな、できまあがな。

その他入る前に、さっき言うた、下山さんどうのこの、執行権という言葉介入して、市長、執行権が介入がどこまでが執行権の介入かわからん。何でも言葉ばあが上ずって広辞苑と仕事の内容聞いてくれよ、執行権がどこまで、議員が監督とか、今言よんのは。ただ言よんのは、どこで何とかの委員会つくとか、どういう推進協議会つくとというて、1人しか出てまあ、今回空家対策でも。これは執行権、そりゃ執行権かもしれん。議員発議でも、何でもええ、議長は知っとんかもしれん、副議長も知っとんかも、各委員長も知らなんだから、我々のとこへ、産業で、総務で大事なかったら、総務文教で各委員へ入れてくれと、ポストへ入れてくれと頼みよう。そういうことも一切のうて、きょうの日にちも入っとらん。そねえなことはいけん言よんじゃ。これ執行権でもくそでもあらへん。増長して勝手に自分らがええと思うてやりようこっちゃ。そねえなことやこいけるわけねえがな。こういうことがあるんじゃ、こういうことせにやおえんのんじゃというのは教えてもうて、それでせられるのは産建のほうから出ていただくというのは別に問題何にもねえ。教えてくれえ。それが執行権言ようたら違うてというたら、そねえなことすなとかというたら、執行権の介入とか、執行権じゃないけど、そういうこと報告願う言よんじゃ。

じゃから、さっきの監査がどれも、松田監査委員がそねえなことすんじゃねえ、全部。そんなことは全部わかったらあ監査、監査。今ええことになっとる。赤磐市がなったら、これは悪かった、えかった、恥をかいたのは、したほうが、負けたほうが恥かきよんじゃから、騒がしゅう。監査請求、百条委員会でもしたら失敗じゃいう。じゃけえ、これをしたら、そねえなもんせんでもええんじゃとか、そうじゃのうて、されるということも問題があったんじゃから、

高飛車に出ずに自分らも反省してもらわにゃおえんのじゃ。どういう説明の仕方があるか、市長自身も言ようった。議長も書いとったが、いろいろなこと。そういうことをしてもらわにゃおえん、それをせにゃおえんのに、そうじゃねえ、そういうことがあったり、水道メーターのあったりしたら、これをしたらのうなるのに、僕は聞くで、今永徳委員の聞き方しょんじゃ、そういう聞き方いつもするよ。これから出たら、こけえ出て悪うなっとなる。ほんならどういふうに成果出すんな、答えというて。低学年の全国の答えてくれというたら、皆これから行くよ。

これからやったら、今やったから、外部監査の委員を決めて、あんたらが決めて、8月上旬、9月出たら監査委員になったら、これはこんなん一切のうなるんやろうな、どういう成果が出るんならというて。費用対効果とかどうなっとならというて言うど、今度らあ。そんなもんじゃなかろうがな。議会って人間がしていきょんじゃから、熱い空気と冷てえ空気どっちをわかるんなら。高気圧、低気圧、空気は回るんじゃけん。わかりとうねえよ、色がついとんじゃねんじゃ、わからへんがな。もうちょい市長初め執行部はもうちょっと丁寧に話をしたり、前もってわかる範囲の資料とかというてもうとかにゃ、この外部監査のことは特に。外部監査というたら総務文教でやるわけじゃろ、総務文教委員会じゃろ、総務文教委員会で総務委員長も知らんとかと言うたりするようなことをやるんじゃったら、あんたらでやってくれえ、そりゃあ。大事なんじゃあ。今度はやったからにゃ、そういう問題は一切起きんと思うてもろうとかにゃおえんけん。起こしてくれたらおえんで。起こしたら責任とってもらうで。

○委員（松田 勲君） 事前の打ち合わせをしてくださいって。

○委員長（北川勝義君） 事前打ち合わせしてくれえとか、そういう話はまた違う。ほかのこともあるということと言よん、絶えず。やっぱりやりたかったらやってもらええんじゃけど、問題にならんようにやってください。なっってから後でごじゃごじゃごじゃごじゃ言わんようにしてくださいということです。

事業の進捗状況については、皆さん、他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければこれで終わります。

それでは、その他について、きょう視察したことが、先に備作高校の跡地の活用利用で現地を視察、吉井中学校プールの建設場所等で視察した、この2件についてを議題に、その他にさせていただきます。

また、その後で各委員とか執行部のほうからその他がありましたらお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○委員（下山哲司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） きょう視察させてもろうたところですが、一般質問でも入札の件で質問

しとんですが、あそこへ立て看板ようけかけてあるけど、フクデンという電気屋だけが下請明細の提示も何もしてない。ほかの業者は全部してあるんで、あそこだけがしてない。何でそういうことになるのかな。どういうことで、せんでもええというて、いつも言うのに看板見たらわかるようにしてくださいというて、この前も一般質問でお願いしとんで、看板を見てもわからん。

何でこんなことを言うかというたら、フクデン自体が余り、人気があええ悪いというたら悪いか、業務上ぼっこうよろしゅうねえ言うたらええんか、そういう内容の会社なんです。あそことったときから津山から、美作から、そこらうちじゅう下請を探して回って、あそこは大体作業員持っとらん。作業員持っとらんようなどこへ指名するんかってこういう。そういう一般質問でも言うとなんじゃけど。とっとる人だからあれなんじゃけど、実質内容的に言うたら、そこらうちじゅう、わしの知った業者のどこへ下請をしてくれんじやろうかといってぐるっと回るとるわけじゃ。じゃけど、どっこもせんわけ。きょう見たら立ってないんな。作業に入る前にはきちっと立てにやいけんじやろ、公共事業のきちっと立ててもらおうようにしよう言われたんな。だから、民間にも立ってくれと言ようるのに公共のどこへ立ってねえ、必要な看板が立ってねえというたらおかしいんで。業者でいえば、支払いするときに分切りをするような業者で、あねえなとこにいかんというのが定番なんじゃ。みんな同業者が知つとんのがな。だから、そういう業者をどうして指名するんかなと思うて。内容を把握せずに指名しようというのが、前にも言うたん。だから、そういうことじゃいけんのよ。

○委員長（北川勝義君） 設計業者が指名しよんじや。

○委員（下山哲司君） じゃから、結果を見させてもらうんじやけど、言うとってもまだ立て看板が立ってない。そういうことじゃ、もう今作業しよんじやろうと思うんじやけど、全く話にならんので、きょうはこれでいいですけど、どういう感覚でやりようられるんかだけ答弁ください。

○委員長（北川勝義君） 再質問すりゃええがな。質問すりゃええがな。反問権で何を言うたんや、わけわからんから、答えてみいって、もう一遍言うて、わからんや。

支所長と兼務しようって、徳光参与が答えるんか。

○総合政策部参与兼市民生活課長（徳光哲也君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 総合政策部が答えにやおえまあがな、おめえ。

はい。

○総合政策部参与兼市民生活課長（徳光哲也君） 今、下山委員の御指摘の件でございますけども、今回、3業者のほうは工事のほうに入っております。それぞれ入札指名委員会のほうで指名をいただきまして、適正に入札のほうも行っておるところでございます。

なお、現場のことにつきましては不十分な点がございましたら、適正に指導してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員、よろしいか。

○委員（下山哲司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 指導というて、それはもう常識の範囲じゃから。自分のところには作業員おらのじゃけ、下請を使わにやできんのじゃから、下請願が出とるはずなんじゃから、そしたら看板もきちっと上げなんだから、どういうことでやりよんかわからんが、僕らから見たら。適正な価格でとって、適正な価格で下請へ出して、きちっとやって、きちっとした作業ができるんならええけど、とりてえだけでとってえて、後から持ち回って何十者もぐるぐる回らなんだから、下請してもらえん。いよいよ困って、頼み込んでしてもらおうようなことじゃだめなんよな。

○委員長（北川勝義君） それこそ執行権の介入じゃがな。

○委員（下山哲司君） それは置いといて。

下請願が出とんなら、看板立てにやいけん。なしで、許可しとんかというて聞いた。看板やこう要らんのかというて。

○委員長（北川勝義君） 指名したら、分けにやおえんというのは、何かようけあるから電気分けるの、そりゃええんじゃけど、分けてやるのは。

○委員（下山哲司君） それは違う。

○委員長（北川勝義君） 違う。あんたらの気持ちで、設計者がこれへ入れえ言うたんじゃねえんか、設計業者が。違うんか。設計を受けとった業者が入れえというて言ったんじゃねえんか、こうやって。違うんか。今までじゃったら、たかだかあんどけするんじゃったら、一つの業者が、Aという業者がAという業者だけがして、Aが電気を頼むとか前しょったけえ、これは分けてしたのは、こらおえん、こう分けたほうがええと言うんじゃねえんか、それは。違うんか、どねえなん。はっきり言えや、おめえ。

○管財課長（小坂憲広君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○管財課長（小坂憲広君） 指名のほうにつきましては、どこからどこ入れとかという指示はございません。

○委員長（北川勝義君） 誰がすんな、ほんなら今回できたのは。

ちょっとええかな。わかった。

このことについて掘り下げるに、この事業がどうのこうの、下山さんは看板出てねえ、下請承認出てねえとかいろいろあるから悪いと内容を知って言わりようる、僕は内容そこんと全然知りもせん、関心もねえんじゃ。電気系統しょうる人が、はっきり言うて電気だけ、赤磐市とか、電気だけ別に分けてくれというたりする、建物しても分けたことはほとんどねえ、皆無じゃ。全部建物はぼんと出てしょうた。今回だけ、僕も、電気分けとるけど、おもしれえな、

不思議ななあと思うて、何でなん。いろいろ聞いてみたら大きい契約か何か知らんで、なったん。あんたら、ほんなら、今度は普通のところに建物を1,000万円も出しときゃ、電気もめぐるときでもこれでよろしいという。修繕する、改修するときでも、今回だけは電気も分けにゃおえんって何でわかったん。小坂課長、ちょっと教えてくれえ。どういことなん、ようわけわからん。

○管財課長（小坂憲広君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○管財課長（小坂憲広君） 分離分割発注のことで、よろしいですか。

○委員長（北川勝義君） 電気を分離分割発注しとるんじゃから、そういうのは。

○管財課長（小坂憲広君） はい。国とかからの指導もありまして……。

○委員長（北川勝義君） いつからあったん。この備作高校の跡地利用のときからあった。

○管財課長（小坂憲広君） いや、以前から。

○委員長（北川勝義君） ほんなら、何で以前はせんのか。何で今回だけ。

○委員（下山哲司君） 金のバランスや。

○委員長（北川勝義君） ちょっと黙っといてくれ。

○管財課長（小坂憲広君） 今回の場合はバランス的に、金額的に同じような額でございましたので……。

○委員長（北川勝義君） 過去に今までに国が指導してきてから、今までそういうことはなかったんじゃな。

○管財課長（小坂憲広君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○管財課長（小坂憲広君） 徐々にそういう……。

○委員長（北川勝義君） 徐々にじゃねえ、こっからただけじゃがな、今までありゃへんがな、分離発注。何を言よんなら。

じゃけ、意図が設計者の人であったんか、それとも市長がこうせえと言うてあったんというて、意図があつたら、あつた言やあええんじゃ。そりゃ市長が権限で入れえ言うたら、どれも言やあへん、別にしゃあねえもん。

○管財課長（小坂憲広君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○管財課長（小坂憲広君） 意図はございません。

○委員長（北川勝義君） ほんならもう一遍、直原部長、意図がねえのに、入れたり、入れなんだり。ほんなら、これからは全部やっていくときは発注もこういうなん考えていくわけじゃな。分離発注するわけじゃな。

小坂課長。

○管財課長（小坂憲広君） 設計の内容等を見ながら……。

○委員長（北川勝義君） だったら、もめとった赤坂の認定こども園やこう、別発注しているいろしときゃよかったじゃねえか。

まあええわ。あんたら思うたようにせられえ。もうやけくそじゃ。あんたら、何でもむちゃくちゃ過ぎる。都合のええ話ばあで。よう考えてもらわなおえんと思う。まあよろしい。このことについてよろしい、私は。下山さんの言ようることちょっとよう理解できてねえけど。

下山さんの、よろしい、下山さんの。

○委員（下山哲司君） わかった。わかったって言よるけえよろしい。

○委員長（北川勝義君） わかったん。わかるわきゃねえわや。

備作高校の跡地はよろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） 次に、プールのことがありますか。

○副委員長（永徳省二君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい。

○副委員長（永徳省二君） 吉井中学校のプールの件で質問します。

先ほど視察のときに聞きました25メートルプールの5コースというふうに聞いたんですけども、あの中学校の生徒数も余りなくて必要かどうかというふうなことも6月の議会であったと思いますけれども、5コースが必要であるのかどうか。それが、いわゆる過剰設備であるのかどうか。あるいは、もしそれが過剰設備だと仮定して3コースとかにしたときに費用がもっと安くできるのかどうかというところは検討されているのでしょうか。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 安本課長。

○教育総務課長（安本典生君） 失礼します。先ほどの御質問でございますが、25メートルで5コース必要かという御意見でございます。

そちらにつきましては、日本水泳連盟のほうの標準的なプールがございます。そちらのほうは25メートル、13メートル幅で5コースというような形になっております。1コース2.5メートルということになっております。こちらのほうを基準に整備ということでお願いをさせていただきたいと思いますが、理由といたしましては、各コース2.5メートルありますと、往復で練習ができるということ、現在B&Gのプールでは生徒が片一方に泳いだら、そこで待っててそれからまた戻ってくるというような往復の水泳ができないということと、それから13メートルの幅があれば、生徒が練習していく上の段階で25メートルの半分程度であるということと13メートル程度のプールの幅をお願いしたいということでございます。

それから、費用につきましては、1コース当たり減ることによってどれぐらい減るかということにつきましては、今現在ではすぐには試算をしておりません。まことに申しわけありませ

ん。

以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 永徳委員、よろしい。

○副委員長（永徳省二君） ありがとうございます。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） これもほんなら、中学校のそれでどれだけ成果が出たというのは見てもらわなおえんな。教えてもらわな。どれだけ動いてやったとか、費用対効果が何ぼあったとか、やってください、今度は。

他になればこれで終わります。

その他について執行部のほうから何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） 委員のほうでその他で何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） その他についてもないようでしたら、以上をもちまして終わりたいと思います。

第6回の総務文教常任委員会を閉会いたします。

閉会に当たりまして、内田教育長のほうから御挨拶いただきたいと思います。

○教育長（内田恵子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、内田教育長。

○教育長（内田恵子君） きょうは早朝より視察、そして先ほどお昼を挟まなくて長時間にわたり貴重な御意見を多数いただきました。今後さまざまな面で検討してまいりたいと思います。ありがとうございました。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございました。

これで本日の委員会を閉会といたします。御苦労さまでした。

午後1時0分 閉会